

病気療養児の心の解放をはかる遠隔授業と CMC

霜村 耕一^{*1}, 山本 裕一^{*2}, 佐藤 修^{*3}, 吉井 英一^{*2}, 西牧 謙吾^{*4}, 西堀 ゆり^{*5}
 Koichi SHIMOMURA^{*1}, Yuichi YAMAMOTO^{*2}, Osamu SATO^{*3}, Eiichi YOSHII^{*4},
 Kengo NISHIMAKI^{*5}, Yuri NISHIHORI^{*6}

*1 北海道大学病院院内学級, *2 北海道大学情報基盤センター, *3 北京日本文化センター,

*4 特別支援教育総合研究所, *5 札幌大谷大学

*6 札幌市立 幌北小学校

Email: gakkyu@genki.iic.hokudai.ac.jp

あらまし：入院や治療で空間的・心理的に閉鎖的抑圧的な状況に置かれやすい院内学級の児童生徒にとって、CMC (Computer Mediated Communication) は心理的な開放をはかり、病状回復の意欲向上に結び付く活動として極めて有効である。そこでテレビ会議システムを用い、教室と北大北京オフィス、札幌円山動物園などを結んでの遠隔授業を試みた。

1. はじめに

院内学級では北海道大学情報基盤センター、医学部・医療情報部の協力を得て、コンピュータ・ネットワーク環境の整備とその利用についての取り組みを行ってきた。

病室と教室とを結び、病状や治療に伴う空間的制約を超えて、通常に近い学習スペースを設定した。さらに病院外、国内外の様々な教育研究施設と教室、病室を結んでの遠隔授業を行った。

さらに生徒同士が時間的・空間的制約を超えて対話できるコミュニケーション・スペースとして構築した innai_sns を充実させる取り組みを行っている。

2. 北海道大学北京オフィスと教室を結んで

北海道大学では平成18年4月に北京オフィスを設置し、平成19年にはテレビ会議システム Polycom7000 が設置された。

院内学級と北京オフィスを結び、異国の特徴ある文化を体験的に学習する総合学習の一環として取り組んでいる。

北海道大学北京オフィスと院内学級の教室をテレビ会議システムPolycom7000で結び、中国の学校の様子、授業風景、学校生活での習慣の違い等を紹介

してもらい、更に中国で使われている漢字・熟語の意味等をクイズ形式で出してもらおう。例えば湯→スープ、大熊猫→パンダ、加油→ガンバレ！、床→ベッドなど子ども達の答えに即答してもらったり、質問したりするやり取りができて子どもたちは喜んで参加している。

身近な国である中国の文化に興味を持ち、さらに進んで知りたい・学びたいという意欲を持ち、同時に前向きに治療に取り組み、病状回復への意欲に結びつけられる事を期待している。



3. 札幌円山動物園と教室を結んで

近年、動物園水族館ブームと言われるくらい動物園水族館は子どもにとって人気の場所となっている。それぞれの園で行動展示の工夫ということに取り組み、動物達の生き生きとした生態が観察できるようになってきた。全国的には旭山動物園が観客数を伸ばし有名になったが札幌の円山動物

園でも行動展示を工夫し、赤ちゃんラッシュの春には愛称を募集するなどして子ども達の行きたい場所の一つとして人気のスポットとなっている。

そこで、これまでの遠隔授業の実践を生かし、テレビ会議システムを用いての中継を試みた。教室に居ながら動物園を歩いて動物舎をめぐり、周りの声を聞いたり近くに寄ったりできるよう、他地点中継型テレビ会議システム Polycom7000 で教室と結び、中継した。

キリンの赤ちゃんの所ではお母さんキリンの横に隠れていた赤ちゃんキリンが顔をのぞかせると周りの観客と共に「かわいい！」と感嘆の声を上げたり、オオカミが厚いアクリル板越しにすぐ近くまで来て大きな顔を正面に向けると思わずよけてしまうような迫力ある場面が中継できた。

「もっと近くに寄って」「横はどうなっているの」等の質問要望にリアルタイムで応えられたり、子ども達の反応に応じて見せるもの等を調整できることから、撮ってきた VTR を見たりするものとはまた違う印象や効果があるものと思われる。



4. Innai_sns

北海道大学病院院内学級の公式ホームページの innai_weblog とは別に、生徒同士が時間的・空間的制約を超えて対話できる総合的なコミュニケーション・スペースとして、オープンソースの SNS エンジンである OpenPNE 利用による innai_sns を構築した。innai_sns は院内学級の生徒と教員、保護者、病棟関係者、前籍校の教員や友人、その他の支援者を参加対象とし、管理者からの招待制で

運用している。また、innai_sns は携帯電話や自宅 PC から閲覧・投稿可能であることから、退院した生徒からも原籍校で生活など近況を知らせる日記や入院中の生徒へのコメントも投稿されている。これらのコミュニケーションも入院している生徒にとっては重要な「外に開かれた」コミュニケーションの機会となっている。

innai_sns に用意されている「マイページ」「メッセージ」「コミュニティ」はコミュニケーション・スペースであると同時にデジタル・ポートフォリオ評価スペースとして機能している。「マイページ」に日記として記録される、遠隔授業や日々の授業、各行事などの感想や自己評価に対して、他者評価としてのコメントが書き込まれる。

以上のように、innai_sns でのコミュニケーション活動が生徒一人ひとりの自主性や積極性に結びつくと同時に、自分の居場所としての安心感を得る場ともなっている。「孤独感」や「取り残される不安」を抱きやすい生徒にとって、innai_sns でのコミュニケーション活動は、自分の居場所を確認し、多くの人たちとの繋がりを確かめられる場となっている。このようにして得られた自己有能感は入院に伴う不安や悩みなどを払拭し、学習や治療への前向きな取り組みへと結びつく。

5. 今後の課題

これまでの取り組みで、内外の教育施設と教室とを結んでの遠隔授業は技術面も含めて効果あるものとして実現可能となった。

今後は教室と結ぶ教育施設などの遠隔「教室」について、空間的にも内容的にもその範囲を広げ、多種多様な学習スペースを築いていきたい。また、空間的な制約を超えた遠隔学習スペースとして innai_sns の充実が必要である。

今後はさらに、これまでの取り組みを充実させ、子ども達を取り巻く様々な不安を解消・軽減し、QOL 向上を図る教育支援を目指したい。